

# 令和3（2021）年3月市長定例記者会見の概要と質疑応答

令和3（2021）年3月5日（金曜日）  
午前11時～午後0時9分  
柏崎市役所 4-3・4-4 会議室

## 1 発表事項

### (1) じよんのび村の「村長」を募集ー3月11日から営業再開

（主管：高柳町事務所）

柏崎市高柳町地内にあるじよんのび村は、柏崎市が出資をする温浴宿泊施設です。私が市長に就任してから4年経ちましたが、当初から厳しい経営状況に置かれていました。じよんのび村の経営に関して、ここ数年非常に頭を悩ませています。

今回「村長」つまり社長を募集します。高柳にとってじよんのび村は非常に大切な施設であり、私自身も決してじよんのび村をなくすことはしないと申し上げています。

じよんのび村協会は経営年度で申し上げますと現在30期になります。これまでの30期中で、16期がそれぞれの1年でマイナス決算という厳しい状況です。平成6年にグランドオープンし、平成20年に約4億円をかけて大規模改修を行いました。大規模改修後は3、4年黒字でしたが、その後はまた赤字に戻ってしまいました。ここ数年は、1年間で多い時には2千万を超えるような赤字が続いています。

3年ほど前から、専門のコンサルタントを入れて経営の体質改善を図ってきました。コンサルタントは、まず売り上げを確保してコストを吸収しようということで、29期は売り上げが伸びましたが、なかなか収益には結びつきませんでした。その中で30期に入りましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で、休館せざるを得ない期間が続きました。再開した7月から11月までは、大幅なコスト削減を図り、単月の収支を黒字化できました。しかし、国の方針などにより12月からまた休館し、まだ3月31日には至っていませんが、30期の決算はマイナス決算になるだろうと承知しています。

現在契約しているコンサルタント、じよんのび村のみならず柏崎市の政策を全般的にご指導いただいているコンサルタントからも、本格的にしっかりとした経営者を雇い、根本的な経営の立て直しを図らなければならないというご指導をいただきました。このようなプロセスを経て、今回じよんのび村「村長」を公募するということです。

あえて「村長」としたのは、じょんのび村は高柳にとって大切にシンボリックな存在であり、いかなることがあっても守ると約束した施設でもありますので、経営のみならず、地域の思いをくみ取る存在として、「村長」という呼称で募集をかけます。

報酬は、期末手当も含めると年額で 800 万円から 1 千万円を用意させていただきます。地域の思いをくみ取り、地域おこしへの情熱を持ち、経営者として厳しい経営ができる方に、ぜひ応募していただきたいと思っています。

## **(2) 市役所新庁舎見学会第 2 弾を開催**

(主管：新庁舎整備室)

柏崎市役所新庁舎は1月4日に開庁し、多くの方々に知っていただけるようになりました。昨年 12 月には市民の皆さんを対象に内覧会を開催させていただきましたが、まだ市役所に行ったことがない、業務が始まっているのでゆっくり見ることができないという声を多くいただきました。

3 月 20 日に 2 回目の新庁舎見学会を開催させていただきます。密を避けるため、定員は各回 60 名、1 グループ 5 名までという人数制限も行います。私も午前中は在室し、市長室に行ってみたいという方がいらっしゃれば、市長室でお相手させていただきます。議長も議場で対応してまいります。

## **(3) 柏崎プリンセスフェアを開催ーこの春、一期一会をプリンセスとともに**

(主管：農政課)

先月、ヒゲソリダイと米山プリンセスの試食会を開催させていただきました。ヒゲソリダイも大変おいしかったです、米山プリンセスも非常においしかったという声をいただきました。市民の皆さんの中にも、米山プリンセスの名前は聞くが食べたことがないという方も多くいらっしゃるということでした。越後姫も非常に甘くておいしいイチゴですが、少し柔らかいため県外への輸送が困難で、ほとんどが県内で消費されている貴重品です。県外の方々には幻の高級イチゴとしても知られ、ふるさと応援基金でも上位にランキングする返礼品の一つです。

米山プリンセス 300 グラムと越後姫をセットで通常 1,200 円のところ、980 円で販売させていただきます。愛菜館、フォンジェ、じょんのび村、3 月 20 日の市役所見学会で販売します。非常にお買い得ですので、ぜひこの機会に米山プリンセスと越後姫のおいしさを多くの

市民の皆さんに味わっていただき、その声をより多くの方々に届けていただければありがたいと思っています。

#### **(4) 市内児童生徒数の推移と見込みをお知らせします**

(主管：教育総務課)

非常に厳しい数字ですので、皆さんに現状をご理解いただき、今後の柏崎市ならびに教育委員会の方向性をお示ししたいと考えています。小、中学校の児童生徒数を5年後まで推計したところ、激減していくという状況です。今後、学区等審議会の立ち上げも視野に入れながら、教育委員会内で統廃合や学区の見直しなどを検討するプロジェクトチームを立ち上げさせていただきます。

小学校は全部で20校あります。その中で、米山小学校と高柳小学校は5年後に児童数が10人台になる見込みです。シミュレーションですので、これから増える可能性もありますが、さらに減る可能性の方が高いと思っています。

第五中学校は4年前に新校舎が竣工しましたが、5年後には全校で25人になる見込みです。中学校の場合は、県立の柏崎翔洋中等教育学校を選択するお子さんもいますので、さらに減ることも考えられます。

地域のシンボルでもある学校がなくなってしまうことが辛いことは十分に理解できますが、学校は子どもたちのものであり、子どもたちにとってより良いものを選択しなければならないと思います。それぞれの学校の部活動をご覧いただいても、学校によっては常設されている部活動が男女で1つずつという学校もあります。

総合計画後期基本計画をこれから作りますが、時代の動きに合わせて計画期間を5年から4年に変更しました。時間軸を意識せざるを得ないような厳しい現実が柏崎にあるということ、私共も肝に銘じていますし、市民の皆さんにもご承知おきいただきたいと思います。

#### **(5) 2年連続で i-都市交流会議 2021 で本市職員が優秀賞を受賞**

(主管：都市計画課)

私共にとって誇らしい報告です。昨年度と同じ都市計画課の職員が優秀賞の1人として選ばれました。今回は、優秀賞を受賞した職員から受賞の経過や発表内容を説明させていただきます。

都市整備部都市計画課都市計画係 若林主事：私は1年間都市構造可視化研修という研修に参加させていただき、その成果をi-都市交流会議2021で発表させていただいたところ、優秀賞を受賞することができました。

まず、都市構造可視化とは何かということの説明させていただきます。スクリーンにgoogleEarthで柏崎市周辺を表示しています。ここに表示されている赤や黄色のグラフが都市構造可視化計画のグラフです。現在表示しているのが1975年の柏崎市の人口で、高さが人口の総数、色の濃さが人口密度を表しています。このように、人口などの統計データを地図上に色と高さを使って三次元的に表現することで、都市構造の現状や課題を直感的、視覚的に把握できるようにするのが都市構造可視化計画です。

1975年の柏崎市は、中心に人口が集積していることが分かります。2015年の柏崎市を見ると、1975年に比べてグラフが低くなっていることから、人口が減少していることが分かります。また、中心だけでなく外側にも人が集まっていることから、郊外化が進んできていることが分かります。

次に、発表内容を簡単に説明させていただきます。タイトルは「都市構造可視化を使いこなせ！」です。発表の一つとして、GISの情報をgoogleEarth上で見られるようにしました。GISは普段業務で使っているツールで、こちらでも地図上に行政が持つ公共施設の位置情報を載せられるものです。このGISと都市構造可視化を組み合わせることによって、さらに可視化の幅を広げることができました。

具体的な活用事例として、公園の誘致圏を示してみました。今表示しているのが駅前公園です。この公園は地区公園に分類され、半径1キロメートルを誘致圏とする公園です。画面のオレンジ色の円の中に住む人々が利用すると想定された公園で、このオレンジ色の円の中にいる人々は、駅前公園にアクセスしやすい場所に住んでいると言えます。駅前公園以外の公園も誘致圏を見えるようにして、市内の公園の利用のしやすさを考えてみました。すると、市内のほとんどの場所が公園の誘致圏に入っていますので、柏崎市は比較的公園を利用しやすいということが分かりました。ここに2015年の柏崎市の人口グラフを合わせると、どこの公園の誘致圏域にも入っていない場所があります。つまり、柏崎市は比較的公園を利用しやすい一方で、公園にアクセスしにくい場所が一部あることが分かりました。

次に、都市構造可視化のタブレット端末での活用です。これまでパソコンでの活用が主でしたが、多くの方がもっと気軽に使えるようにタブレット端末での活用に取り組みました。具体的には、新潟工科大学でiPadを使った都市構造可視化の講義をしました。新潟工科大学

では学生が1人1台 iPad を持っているため、演習形式で全3回の講義を行いました。初回は都市構造可視化とは何かという初歩的なところから始まりましたが、最後の講義では、学生が自ら都市構造可視化を使って出身地の現状や課題を発表できるまで使いこなせるようになりました。

1年間研修に参加して、使い方次第でさまざまな分野で都市構造可視化を活用できる可能性があると感じました。これからも都市構造可視化の活用や普及に取り組んでいきたいと思っています。

## 2 質疑応答

### ◎じよんのび村の村長募集に関する質問

**記者：厳しい経営状況が続く中での村長の募集だと思うが、村長になる人にはどのような立で直しを期待しているか。**

市長：高柳の魅力は、人間の温かいところや自然に溶け込んだ生活だろうと思います。高柳ははっきり申し上げて田舎ですが、荻ノ島の地域づくりや門出の和紙などの洗練された文化、地域がたくさんあります。そういったものを感じ取っていただきながら、経営者として数字をよく理解できる方が良いと思います。強く優しい方を求めたいと思っています。

**記者：抜本的に改善を図るということだが、今回の登用によってどれぐらいの期間で経営の改善につなげたいか。また、市として増資や新たな出資をする考えはあるか。**

市長：増資などの考えは今のところありません。経営改善については、今期は7月から11月まで単月で黒字化しています。これはコストを大幅に削減した成果だろうと思います。どうすれば黒字化できるかという道筋は分かりました。しかし、コロナ禍の状況で、私を含めて市の職員、コンサルタント、現社長をはじめ社員総掛かりでなんとかここまできましたが、私も市の職員も専門ではありません。腰を落ち着けてじよんのび村の経営に取り組んでいただけの人材が見つかったならば、さらに力強く進めていけるとと思います。新型コロナウイルス感染症の状況にもよりますが、2、3年ぐらいの中で黒字化していただけるのではないかと期待しています。

**記者：今のじよんのび村には何が欠けていて人材を求めているのか。**

市長：今期までコンサルティングしていただいた方々の報告書をいただきましたが、一言で言うとマネジメント能力が欠けているということでした。コストコントロール、予算管理、営業、企画、販売、あらゆる領域でのマネジメント能力が欠けているとの報告を受けました。現社長にも頑張ってもらっていますが、元々は公務員で専門ではありません。マネジメント能力に長けたプロを求めています。

**記者：今のコンサルタントは2年間続けてきて、単月で黒字化できたのであればそのまま続けられればいいのではないかという考え方もあるが、あえて募集するのは何が狙いか。**

市長：今のコンサルタントに、この施設をお任せするからやってもらえないかという投げかけもさせていただきましたが、市が億単位で再投資することが条件だというお話でした。ここで億単位の再投資はできないと考えましたので、結果的に人材を募集することになりました。

**記者：抜本的な計画立て直しを図るという結論をまとめたコンサルタントは温泉道場か。**

市長：はい。また、じよんのび村のみならず柏崎市政の全般的な政策的コンサルティングをいただいている経営共創基盤からも同様のコメントをいただきました。

**記者：じよんのび村に入っていたコンサルタントと市を総合的に見ていたコンサルタントがほぼ同じ結論を出したということか。**

市長：はい。

**記者：永井社長は、新社長が決まった時点で解任ということか。**

市長：どのようなポジションになるかわかりませんが、少なくとも社長ではなくなります。

**記者：今は温泉宿泊施設という形態だが、コロナ禍以前から団体旅行の減少などで落ち込みがちな分野だったと思う。新しい社長には、温泉宿泊のスタイルを保った上での改善か、経営スタイルも含めた改革を求めるのか考えを伺いたい。**

市長：昨年から今年にかけてコロナ禍にあり、休むにしても宿泊を全て休むのか、日帰りだけにするかなど悩みました。週末は宿泊もやり、平日は宿泊をやらないという方向性もありました。新しい社長には、基本的には自由に、条件は少なくともじよんのび村を黒字化して

立て直してもらいたいということなので、そのための手段は選びません。宿泊だけにするか、日帰りだけにするか、収益が上がるならばどちらでも構いません。しかし、今年の実験から、日帰りだけではなかなか収益は上がらないのが分かりましたので、宿泊も日帰りも含まれるのではないかと考えていますが、基本的には新しい社長の考え方によります。

### ◎児童生徒数の推移と見込みに関する質問

**記者：今後の取り組みの方向性で、プロジェクトチームの立ち上げや、最終的には学校統廃合のロードマップを策定するとあるが、チームの立ち上げ時期や最終的なロードマップ作成の目標年度など、将来的なスケジュールを伺いたい。**

市長：立ち上げの時期は、すでに始まっているような感じですので、正式には新年度からになると思います。特に予算措置は必要ありませんので、意識の共有や現状把握も含めて、すでに始まっているとご承知いただきたいと思います。

スケジュール感は、2年はかかるのではないかと考えています。その間に保護者や地域の方々など、いろいろな方の話を伺いたいと考えています。

### ◎都市構造可視化に関する質問

**記者：発表資料の中に、立地適正化計画の検討にも活用していくとあるが、このシステムで具体的にどのような活用ができそうか。**

都市整備部都市計画課都市計画係 若林主事：都市構造可視化計画のツールでは、都市の現状や近郊だけでなく、第三次産業の方がどの辺りで多く働いているかなど、都市の行動把握に優れているツールなので、主に都市の現状や行動把握などで活用しました。

### ◎柏崎刈羽原子力発電所の問題報道に関する質問

**記者：前回の会見後からも、さらに工事の未完了という問題が次々出ているが、どう思うか。**

市長：多く出れば出るほど心配は大きくなります。いくつ出てくるのかという思いは持っています。しかし、一つ出た、二つ出たということに対して、私はコメントする立場にありません。今回徹底的に確認してもらいたいと思います。全部出終わった段階でもう一度考えていかなければならないと思っています。

**記者：核物質防護の問題で、侵入を検知する設備を誤って壊してしまったという問題も新たに出てきたが、詳しい説明は受けているか。**

市長：受けていません。詳しく説明するよう求めたこともありませんし、まずは徹底的に調べてもらいたいと思います。東京電力から私共に対して詳しく説明したいという申し出も今のところありません。

**記者：市長から、この問題に関する東京電力の発表タイミングが最初の問題よりも早くなったことを評価したいと伺った。発表は設備が壊れてからある程度期間が空いてからだったが、その辺りはどう感じるか。**

市長：早いほうが良いかもしれませんが、早ければ早いほど良いとは言い切れないと思っています。私の解釈が合っているか分かりませんが、核物質防護規定に関するものであるとするならば、どこまでオープンにできるのか、どのレベルなのかも含めて、一定程度時間がかかることは理解しています。

**記者：来週で東日本大震災から 10 年経つが、柏崎刈羽原発はいまだに不祥事や問題を繰り返している。このことについてどう思うか。**

市長：たまたま今年が 10 年目という節目の年になり、その年にこのような事案が出たことに必然性があるとは思えませんが、私は福島をきっかけに、20 日後の 3 月 31 日に政治団体を解散して政治から身を引きました。ある意味で自分の人生を決めた事故でした。また今、凶らずも市長として原子力発電所の問題に対応していることを考えると、東京電力だけでなく、私も含めて国や国民がもう一度考えなければいけないのではないのかと思います。私自身は、福島の事故を経ても、一旦政治から身を引いても、当面の間は原子力発電所が必

要であると申し上げています。いずれにしても、安全や安心が担保されることが前提になりますので、10年目のこの節目のとき、また、再稼働議論が始まっているときに、東京電力がこのような事案を起こすことは、東京電力のみならず、私たち自身もその意味を考えなければいけないと思っています。

**記者：どのようなことを私たち自身も考えなければいけないのか。**

市長：原子力発電所の存在、意義、東京電力以外も含めた電力会社の存在、日本のエネルギー状況、供給体制、関連する法律やシステム全てです。

### **◎原子力発電所の安全協定の法的根拠の付与に関する質問**

**記者：施政方針の中で、いわゆる安全協定の法的根拠の付与に言及され、これから意見交換などを行うということだが、市長は法的根拠の付与は必要だという立場で議論するのか。**

市長：違います。私自身が分からないということです。この安全協定は紳士協定と呼ばれていますが、いろいろな解釈があります。法律ではないが、法的位置付けに相当するものと解釈される方もいます。例えば今回の再稼働の議論にしても、他の原子力発電所の再稼働議論のときも、安全協定により、と言ってそれぞれの立地自治体の名前が出てきますが、その安全協定とは一体どういうものかということ、もう一度言及したいということです。結論ありきではありません。

**記者：結論によっては、再稼働に関して立地自治体も何かしら認める、認めないという意思表示をするか、規制当局や国に全て任せるか、という大きく分けて2つあると思うが、市長はどちらの立場か。**

市長：今ほど申し上げたとおり、今は分かりません。少なくとも、今回の7号機の再稼働議論中に安全協定に対する位置付けが見直されるか、見直されないかが決まるとは思いません。原子炉等規制法の改正なども挙げましたが、もし法的な根拠を求められるならば、おそらく原子炉等規制法の関係になってくると思います。法改正などが必要になることを考えると、

基本的には国会議員の仕事になりますので、今後、研究や問題提起を始めたいというレベルです。

**記者：施政方針を見たところ、法的根拠の付与が必要だという観点で研究や意見交換を始めると捉えていたが、そうではないのか。**

市長：法的付与も含めて研究するとさせていただいたと思います。法的な根拠を付与することが良いか悪いかは、私自身まだ結論が出ていません。これから研究させていただきたいと思っています。

**記者：議会の中で、今回の規定の見直しは福島原発事故以前から考えていたと発言された。なぜ今この問題を挙げたのか。**

市長：福島の事故以前からというのは、たわいないことです。具体的には、安全協定は甲が新潟県で、乙が協定者である柏崎市および刈羽村になっています。柏崎市も刈羽村も独立した地方自治体であるにもかかわらず、協定書の中ではひとくくりにされています。乙の部分に地方自治体が併記されている他の原発の安全協定もあります。そういったことも含めて、少しおかしいと思い始めました。

小さいことですが、私にとっては大きなことです。再稼働議論のときに、安全協定を基に再稼働うんぬん、事前了解うんぬんと出ます。事前了解は、第3条の「計画等に対する事前了解」という言葉がありますが、その中では、限定された施設などの新增設または変更しようとするときとなっています。つまり、再稼働に関係した事前了解うんぬんではありません。しかし、見方によっては、安全協定の第19条の「その他」事項の「この協定の実施に関し必要な事項及びこの協定に定めのない事項については、甲、乙及び丙が協議して別に定めるものとする」とありますので、もし安全協定を基に再稼働うんぬんとするならば、この「その他」事項で解釈できるとも思いました。実際に他の原発では、同じように「その他」事項があり、これに基づいて再稼働を認める、認めないという協議をしている自治体もあると承知していますので、これも含めて研究させていただくところです。

**記者：なぜ今なのかというところは、再稼働が議論されて近づいてきたからということか。**

市長：安全協定に関して疑問を持っていた議員時代から、今、市長になって再稼働の議論をしています。そして、私共より先行して再稼働している原発立地自治体があり、報道の中に安全協定に基づいてという言葉が出てきたので、安全協定は今どうなっているのか見返しました。すると、相変わらずの表現になっていたので、これが再稼働の根拠になるものかと疑問が生じたというところではあります。さらに、新潟県の状況を考えると、紳士協定である安全協定があり、紳士協定にすらなっていないと思われる新潟県の三つの検証があります。三つの検証が再稼働の議論を始めるか始めないかという一つの事柄になっているので、それもどうなのかという疑問もあり、施政方針に書かせていただいたところです。